

# 岩手県治山林道請負工事施工管理基準

## (目的)

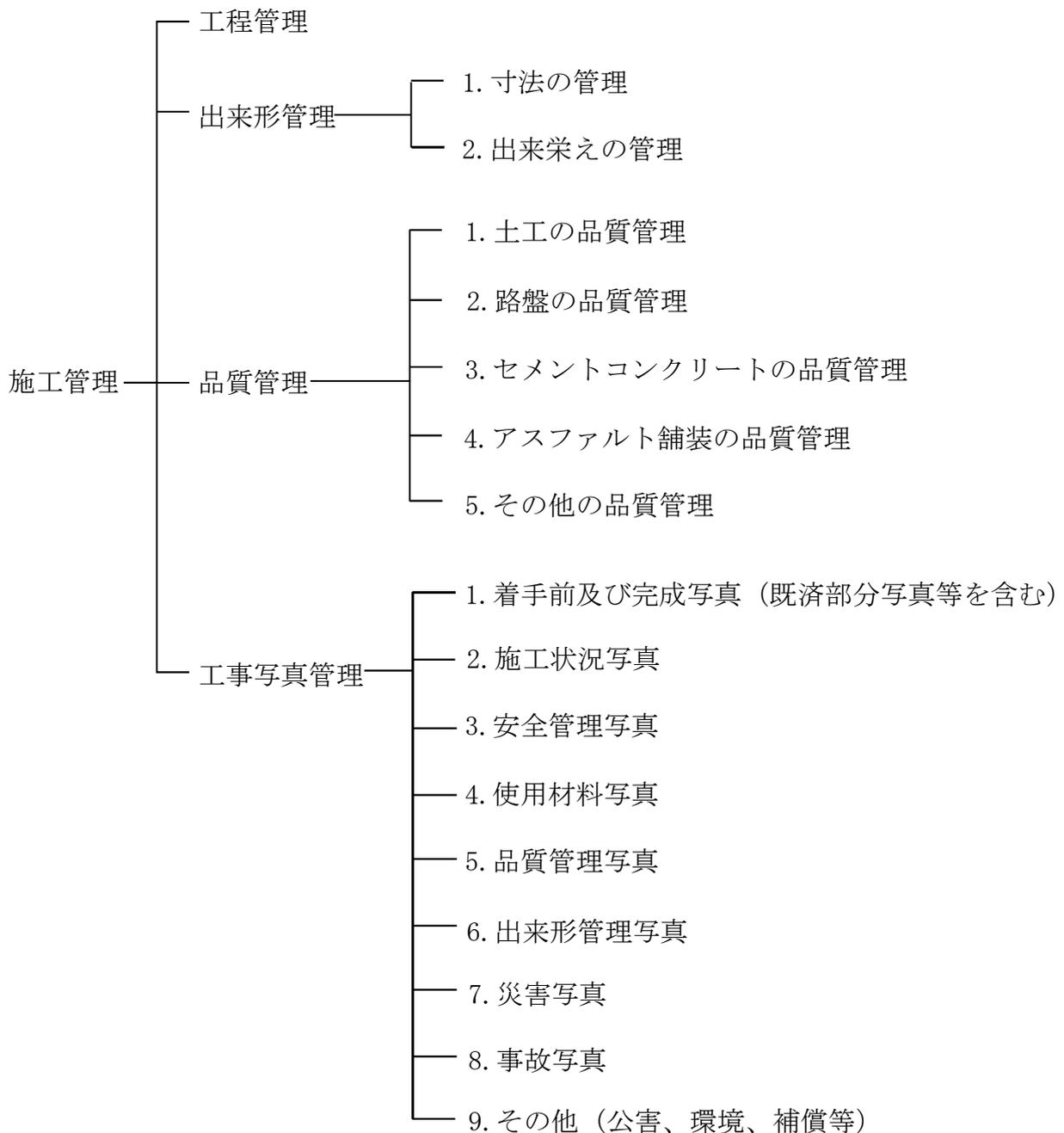
第1 治山林道工事の施工について、設計図書及び仕様書に定められた出来形及び品質規格を確保し、併せて施工記録の作成と施工技術の向上を図ることを目的とする。

## (適用)

第2 この基準は県が発注する治山・林道工事の施工について適用する。ただし、施工規模、施工条件（工事目的物の重要性、軟弱地盤等の特別な条件差、施工の困難性等）等により別途基準を定める場合は、発注者の指示によるものとする。

## (構成)

第3 この基準における施工管理の対象項目及び構成は、次のとおりとする。



(管理の実施)

第4 管理の実施は、次により処理するものとする。

- (1) 受注者は、工事施工前に施工計画書を監督員に提出しなければならない。施工計画書には施工管理担当者名及び施工管理目標値を記載するものとし、目標値は出来形管理基準を下廻らないように定めなければならない。
- (2) 施工管理担当者は、当該工事の施工管理を掌握し、適格な管理を行ないうる者でなければならない。
- (3) 測定、試験等は、工事の実施と併行してできるだけ早い時期に行い、管理の目的が達せられるようにしなければならない。
- (4) 測定（試験）結果は、その都度管理図表または結果表等に記録し、適切な管理を行なわなければならない。
- (5) 測定（試験）値が著しく偏向する場合、バラツキが大きい場合等は、精査のうえ原因を見極め、作業標準（作業方法、作業機械等）を改める等の処理を行わなければならない。
- (6) 管理図表は工事の主要段階において、監督員に提示し確認を受けるものとする。
- (7) 出来形検査、完成検査に際しては、あらかじめ監督員の確認をうけた管理図表、または結果表及び出来形図を整えておき、検査員に提示して検査を受け、検査後は監督員に提出するものとする。

(管理基準および方法)

第5 受注者は、設計図書または、仕様書に定められた出来形および品質規格を確保し、かつ記録するため、次の実施基準を満足するよう管理しなければならない。

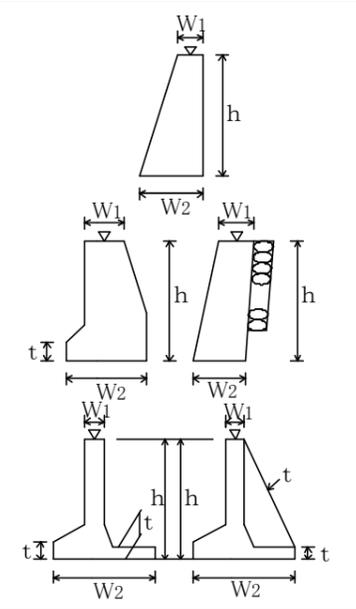
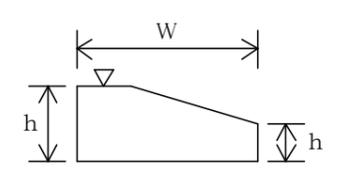
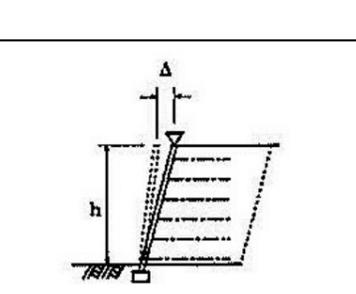
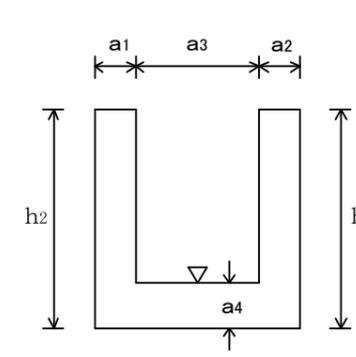
- (1) 工程管理は、工事の内容に応じた方法（ネットワーク方式、バーチャート方式等）により作成した実施工程表により管理するものとする。
- (2) 出来形管理は、治山・林道工事出来形管理基準及び規格値（別表-1）、土木工事施工管理基準及び規格値（岩手県県土整備部）により管理し、設計値と実測値を対比して記録した出来形図または、出来形表（管理図を含む）を作成するものとする。
- (3) 品質管理は、土木工事施工管理基準及び規格値（岩手県県土整備部）、治山・林道工事品質管理基準及び規格値（別表-2）に基づいて実施し、その内容に応じた管理図表を作成するものとする。
- (4) 写真管理は、土木工事施工管理基準及び規格値（岩手県県土整備部）の写真管理基準に基づいて実施するものとする。

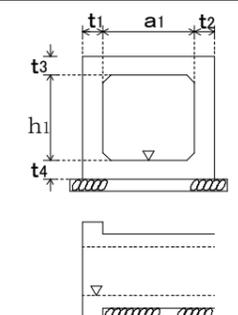
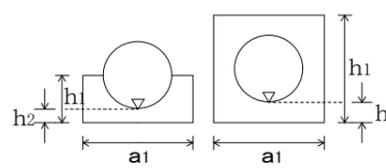
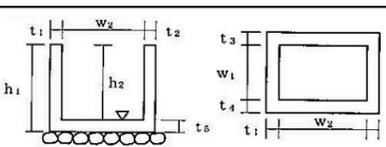
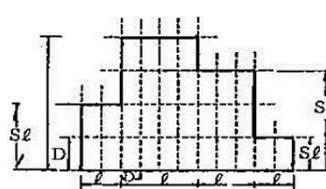
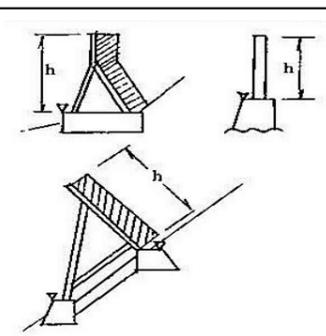
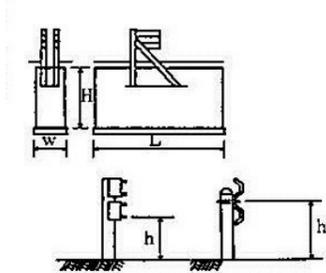
(管理の様式)

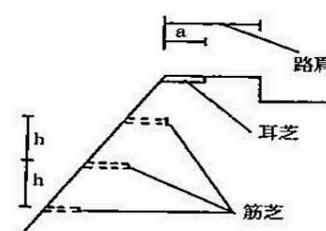
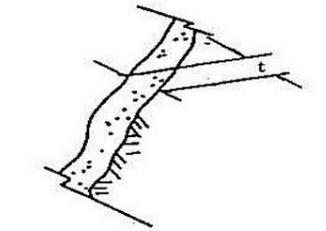
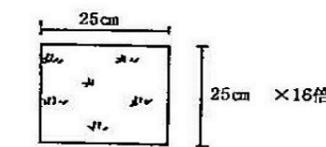
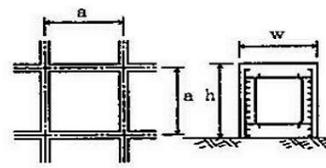
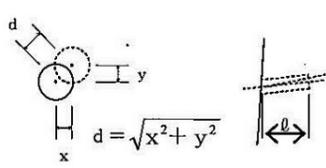
第6 管理図、結果表、記録等は、土木工事施工管理基準及び規格値（岩手県県土整備部）に定められた様式または監督員の承諾を得た様式によるものとする。

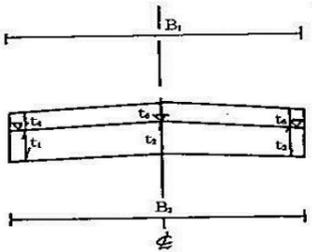
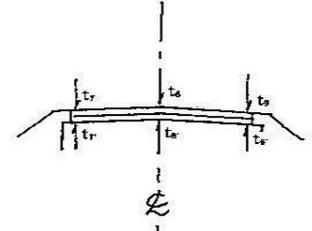
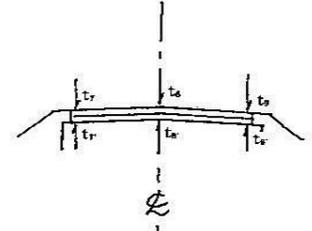
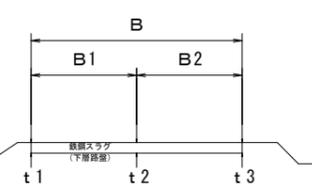
別表-1 治山・林道工事出来形管理基準及び規格値

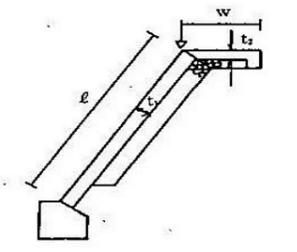
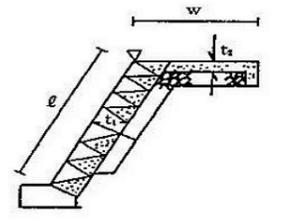
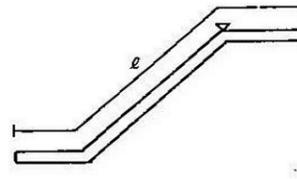
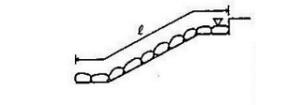
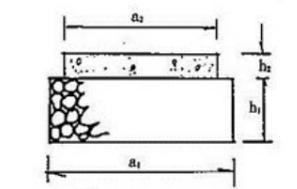
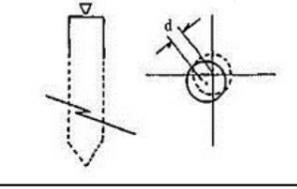
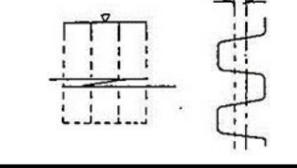
工種	項目	規格値(mm)	施工管理基準				概要	
			測定基準	結果表によるもの(設計値、実測値、差を記入する)	設計図(展開図見取図)に実測値を朱書するもの	管理図表によるもの		
道路土工	施工延長	測点間延長(L)	±100	1 測点が座標値を持たない場合は、全てのIP測点間距離と交角(内角)を測定する。また、BC、EC測点の位置(TL)を測定するほか、MC測点の位置(SL)も測定する。  なお、測点間(NO測点間、BC~NO測点間、EC~NO測点間)延長は直線部において全測点の30%以上を測定する。  2 測点に座標値を持たせている場合は、全てのBC、MC、EC測点の位置をトラバース測量基準点から距離と交角(内角)を測定する。なお、NO測点の位置は全測点の30%以上をトラバース測量基準点から距離と交角(内角)を測定する。	実測値を結果表にとりまとめる。			
		その他延長(L)	±0.5%					
	路線形	角度(交角)	10分					
	縦断	基準高 敷砂利・盛土面 舗装面	±100 ±50	延長20mにつき1箇所測定する。基準高は道路中心線、および端部で測定する。	同上		基準高を実測し様式45号で管理する。	
	切取盛土	基準高 幅(B) 法長 法勾配 盛土	±100 -100 θ ≥ 5.0m: -4% θ < 5.0m: -200 切土: -0.5分 +1.0分 盛土: ±0.5分	1 延長40mにつき1箇所測定する。基準高は道路中心線、および端部で測定する。  2 幅は中心線より左、右に分けて測定する。	同上		基準高を実測し様式45号で管理する。	
路盤工	路盤工(敷砂利)	敷巾(B) = B1、B2	-50	1 敷巾は20mにつき1箇所測定する。  2 敷巾は中心線より左・右に分けて測定する。  3 敷厚は40mにつき1箇所掘り起して測定する。	測定値は結果表にとりまとめる。		幅、厚さを実測し様式45号で管理する。	
		敷厚(T)	-15%					
ブロック積工	ブロック積(張)(山腹土留工、流路工、護岸工を含む)	基準高	±50	施工延長20mにつき1箇所、延長20m以下のものは、1施工箇所につき2箇所測定する。	1 基準高、厚さ、法長延長を結果表にとりまとめる。  2 工種別出来形計算書を作成する。	1 図面表示箇所に実測値を記入する。  2 厚さ測定箇所および実測値を記入する。		
		法長	θ < 3.0m: -50 θ ≥ 5.0m: -100					
		厚さ(t1)	-30					
		延長(L)	-100					
		法勾配	±0.3分					
		裏込工(厚さ)(t2)	-50					

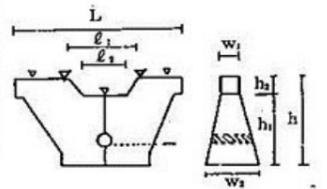
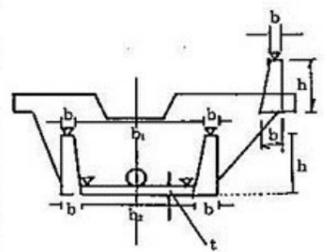
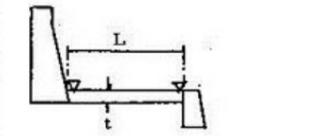
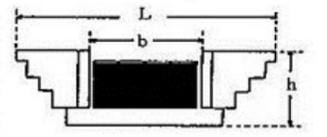
工種	項目	規格値(mm)	施工管理基準			概要	
			測定基準	結果表によるもの(設計値、実測値、差を記入する)	設計図(展開図見取図)に実測値を朱書するもの		管理図表によるもの
コンクリート擁壁工	コンクリート擁壁工(トンネル坑門、山腹土留工、流路工を含む)	基準高	±50	1 施工延長20mにつき1箇所、延長20m以下のものは、1施工箇所につき2箇所測定する。  2 幅、高さ、法勾配については施工延長20mにつき1箇所の割、延長20m以下のものは1施工単位2箇所測定する。  3 トンネル坑門は一般図の主要寸法表示箇所で測定する。その他は寸法表示箇所。	基準高、幅、高さ、厚さ、延長等を図面に表示できないものは結果表にとりまとめる。	基準高、幅、高さ、厚さ、延長等を図面表示のできるものは実測値を記入する。	
		幅(W1、W2)	※-30				
		厚さ(t)	※-20				
		高さ	h < 3.0m ※-50 h ≥ 3.0m ※-100				
		延長(L)	-100				
		法勾配	※±0.3分				
		※は現場打に適用					
コンクリート基礎工	コンクリート基礎工(ブロック積工、プレキャスト擁壁、法枠工等の基礎工)	基準高	±50	施工延長20mにつき1箇所、延長20m以下のものは、1施工箇所につき2箇所測定する。	基準高、幅、高さ、厚さ、延長を結果表にとりまとめる。	図面表示箇所に実測値を記入する。	
		幅(W)	-30				
		高さ(h)	-30				
		延長(L)	-100				
補強土壁工	補強土壁	基準高(▽)	±50	施工延長20mにつき1箇所、延長20m以下のものは、1施工箇所につき2箇所測定する。	測定結果を表にとりまとめる。	基準高、幅を実測し様式45号で管理する。	
		高さ(h)	-100				
		鉛直度(Δ)	±0.03 h かつ ±300以内				
		控え長さ	設計値以上				
		延長(L)	-200				
側溝等	コンクリート側溝工(水路工を含む)	基準高	±50 流量計算により通水断面を決定している場合、規格値以内であっても、所定の流量計算安全率を確保できなければならない。舗装と近接する場合は、舗装面より高くしてはならない。	施工延長20mにつき1箇所延長20m以下のものは1施工箇所につき2箇所、なお、製品使用の場合は、製品の寸法については規格証明書等による。	基準高、幅、高さ、厚さ、延長を結果表にとりまとめる。	図面表示箇所に実測値を記入する。	
		幅(a3)	※-30				
		高さ(h1、h2)	※-30				
		厚さ(a1、a2、a4)	※-20				
		延長(L)	-100				
		(各区間延長および総延長とも)	※は現場打に適用				

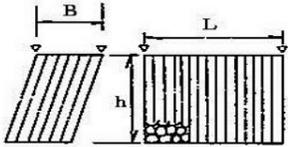
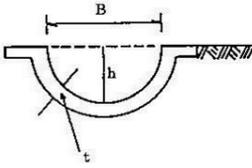
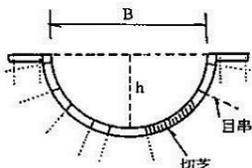
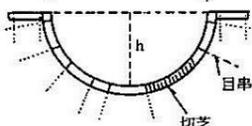
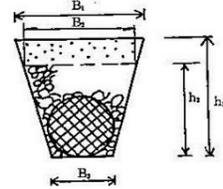
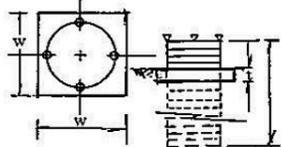
工種	項目	規格値(mm)	施工管理基準			概要		
			測定基準	結果表によるもの(設計値、実測値、差を記入する)	設計図(展開図見取図)に実測値を朱書するもの		管理図表によるもの	
溝渠	函渠工(樋門、樋管)	基準高	±50	函渠寸法は、両端、施工継手箇所、および構造図の寸法表示ヶ所、なお製品使用の場合は、製品の寸法については規格証明書等による。	図面に表示のできないものについては結果表にとりまとめる。	基準高、厚さ、幅、高さ、延長を図面表示箇所に記入する。		
	厚さ(t1, t2, t3, t4)	※-20						
	幅(内法)(a1)	※-30						
高さ(h1)	※±30							
延長	L < 20m	-50						
	L ≥ 20m	-100						
		※は現場打に適用						
溝渠	コンクリート管渠工	基準高	±50	施工延長20mにつき1箇所延長20m以下のものは、1施工箇所につき2箇所測定する。	基準高、幅、高さ、延長を図面表示できないものを結果表にとりまとめる。	延長等図面表示の出来るものの実測値を記入する。		
		幅(a1)	※-50					
		高さ(h1, h2)	※-30					
		延長(L)	-100					
	(各区間延長および総延長とも)	※は現場打に適用						
溝渠	集水枡工	基準高	±50	1箇所(個)毎	基準高、幅、高さ、延長を図面表示できないものを結果表にとりまとめる。	延長等図面表示の出来るものの実測値を記入する。		
		厚さ(t1~t5)	-20					
		幅(W1, W2)	-30					
		高さ(h1, h2)	-30					
落石防止網工	落石防止網	区間長	ℓ < 10m	-100	1 全箇所 2 のり長は、最上段と最下段のロープ間隔とする。	設計図に記入又は出来形図等を作成する。		
			ℓ ≥ 10m	-200				
		ロープ間隔(D)	+50					
		のり長(Sℓ)	-2%					
落石・なだれ防止柵工	落石防止柵 なだれ防止柵	基準高(基礎工)	±50	全箇所		設計図に記入又は出来形図等を作成する。		
		延長	ℓ < 10m					-50
			ℓ ≥ 10m					-100
		高さ(h)	±30					
防護施設工	ガードレール ガードケーブル	延長(ℓ)	-0.2%	全箇所	測定結果を結果表にとりまとめる。			
		高さ(h)	+30~-20	ポスト数の20%程度				
		基礎	(W)	-30				全箇所
			(H)	-30				
(L)	-50							

工種	項目	規格値(mm)	施工管理基準				概要			
			測定基準	結果表によるもの(設計値、実測値、差を記入する)	設計図(展開図見取図)に実測値を朱書するもの	管理図表によるもの				
法面保護工	耳芝	幅(野芝) (a)	-20	1 張芝の面積は、全施工面積を測定する。 2 筋芝の間隔(h)は1施工箇所毎に1箇所測定する。	図面表示のできないものについては結果表にとりまとめる。	土羽面積を展開図に表示、記入する。				
	筋芝	延長(耳芝) (L)	-100							
	張芝	※20mにつき	-2%							
	コンクリート(モルタル)吹付工	厚さ	t < 5cm t ≥ 5cm	-10 -20	1 200㎡に1箇所以上、200㎡未満は2箇所さく孔により測定する。 2 アンカー本数の調査は200㎡につき1箇所、200㎡未満は2箇所 3 法長、延長は全箇所を測定する。	コー又はさく孔測定を行った箇所及び実測値を表示する。		法長、延長を実測し、出来形展開図、面積計算書を作成する。		
				吹付面に凹凸がある場合の最少吹付厚は、設計厚の50%、平均厚は設計厚以上						
		法長	0 < 3m	-50						
		延長	0 ≥ 3m	-100						
		アンカー本数		-2本/10㎡						
	種子吹付工	法長	0 < 5m	-100	1 成立本数の調査は1,000㎡につき1箇所、1,000㎡未満は2箇所以上 2 アンカー本数はコンクリート(モルタル)吹付工と同じ 3 法長、延長は全箇所を測定する。			1 成立本数調査箇所および実測値を表示する。 2 法長、延長を実測し、出来形展開図、面積計算書を作成する。		
	植生ネット	延長	0 ≥ 5m	-2%						
植生シート										
植生マット										
吹付工										
金網張種子										
吹付工										
植生基材吹付工	厚さ	t < 5cm t ≥ 5cm	-10 -20	1 200㎡に1箇所以上、200㎡未満は2箇所以上さく孔により測定する。 2 成立本数の調査は種子吹付工と同じ 3 アンカー本数はコンクリート(モルタル)吹付工と同じ 4 法長、延長は全箇所を測定する。	さく孔測定を行った箇所および実測値を表示する。	1 成立本数調査箇所および実測値を表示する。 2 法長、延長を実測し、出来形展開図、面積計算書を作成する。				
客土吹付工			吹付面に凹凸がある場合の最少吹付厚は、設計厚の50%、平均厚は設計厚以上							
	法長	0 < 5m	-100							
	延長	0 ≥ 5m	-2%							
現場打(現場吹付)法枠工	延長(L)		-100	1 中心間隔、高さ、幅は枠のべ延長100mにつき1箇所、100m以下のものは1施工箇所につき2箇所 2 アンカー本数はコンクリート(モルタル)吹付工と同じ	測定を行った各寸法の実測値を表示する。	法長、延長を実測し、出来形展開図、面積計算書を作成する。				
	法長	0 < 10m	-100							
	延長	0 ≥ 10m	-200							
	吹付枠中心間隔(a)		±100							
	高さ(h)		-30							
	幅(b)		-30							
アンカー工	削孔深さ(L)		設計値以上	全数	測定値は結果表にとりまとめる。		削孔深さ、配置誤差、せん孔方向は実測し、様式45号で管理する。ただし、配置誤差は実測値を基に右式で算出した値を管理する。			
鉄筋挿入工	配置誤差(d)		±100							
			※アンカー工のみに適用							
	せん孔方向(θ)		±2.5度							
植生ネット張工	法長	0 < 5m	-100	アンカー本数はコンクリート(モルタル)吹付工と同じ	アンカー数測定箇所および実測値を表示する。	法長、延長を実測し、出来形展開図、面積計算書を作成する。				
	延長	0 ≥ 5m	-2%							

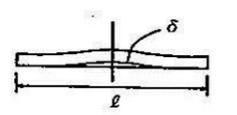
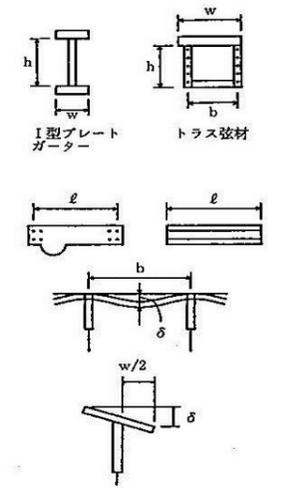
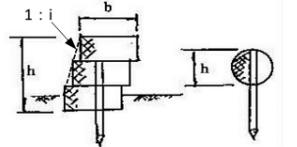
工種	項目	規格値(mm)	施工管理基準				概要		
			測定基準	結果表によるもの(設計値、実測値、差を記入する)	設計図(展開図見取図)に実測値を朱書するもの	管理図表によるもの			
ア ス フ ア ル ト 舗 装 工	下層路盤工(コンクリート、又はアスファルト舗装工を行う場合)	基準高	±40	1 基準高、幅は、延長20mにつき1箇所の割合とし、基準高は道路中心線、および端部で測定する。  2 厚さは200mごとに掘起し測定する。ただし、最少測定箇所数は3箇所とする。  3 敷巾は中心線より左・右に分けて測定する。	測定値は結果表にとりまとめる。	設計図(展開図見取図)に実測値を朱書するもの	管理図表によるもの	基準高、幅、厚さを実測し様式45号で管理する。  	
		幅(B) = B/2	-50						
		厚さ(t1、t2、t3)	-45						
	下層路盤不陸整正工	基準高	±40	基準高は、延長20mごとに1箇所の割合とし、道路中心線、およびその端部で測定する。	測定値は結果表にとりまとめる。		基準高を実測し様式45号で管理する。		
	上層路盤工	幅(B)	-50	1 幅は延長20mごとに1箇所の割合とし、厚さは、仕上高を延長20mごとに道路中心線およびその端部で測定し200mごとに掘起して測定する。  2 幅は中心線より左・右に分けて測定する。	測定値は結果表にとりまとめる。	設計図(展開図見取図)に実測値を朱書するもの	管理図表によるもの	幅、厚さを実測し様式45号で管理する。	
		厚さ(t4、t5、t6)	-25						
	セメント(石灰)安定処理路盤	幅(B)	-50	1 幅は、延長20mごとに1箇所の割合で測定、厚さは1,000㎡に1箇所の割合でコアを採取もしくは掘り起こして測定する。  2 幅は中心線より左・右に分けて測定する。	測定値は結果表にとりまとめる。	設計図(展開図見取図)に実測値を朱書するもの	管理図表によるもの	幅、厚さを実測し様式45号で管理する。	
		厚さ(t1、t2、t3)	-25						
	ア ス フ ア ル ト 舗 装 工	アスファルト舗装工(基層)	幅(B)	-25	1 幅は延長20mごとに1箇所の割合で測定する。  2 厚さは1,000㎡に1箇所の割合でコアを採取し測定する。ただし、最少測定個数は3箇所とする。	測定値は結果表にとりまとめる。	設計図(展開図見取図)に実測値を朱書するもの	管理図表によるもの	幅、厚さ、平坦性を様式で管理する。  
			厚さ(t7、t8、t9)	-9					
アスファルト舗装工(表層)		幅(B)	-25	3 幅は中心線より左・右に分けて測定する。	測定値は結果表にとりまとめる。	設計図(展開図見取図)に実測値を朱書するもの	管理図表によるもの	幅、厚さ、平坦性を様式で管理する。	
厚さ(t7、t8、t9)	-7								
平坦性	3mプロフィールメーター(δ) 2.4mm以下 直続式(足付き) (δ) 1.75mm以下								
コ ン ク リ ー ト 舗 装 工	コンクリート舗装工(目詰防止工を含む)	幅(B)	-25	1 幅は延長20mごとに1箇所の割合で中心線より左・右に分けて測定する。  2 厚さは延長200mごとに道路中心付近及び端部で型枠据付後に水糸又はレベルにより横断方向に3箇所測定する。  3 平坦性は版縁から1mの線上で全延長測定する。	アスファルト舗装工に準ずる。	設計図(展開図見取図)に実測値を朱書するもの	管理図表によるもの	アスファルト舗装工に準ずる。  	
		厚さ(t7、t8、t9)	-10						
		平坦性 ※目詰防止工には適用しない。	3mプロフィールメーター 機械(δ) 2.4mm以下 人力(δ) 3.0mm以下						
鉄 鋼 ス ラ グ 路 盤 工	鉄鋼スラグ路盤工(下層路盤を除く)	幅(B)	-25	1 幅は延長20mごとに1箇所の割合で中心線より左・右に分けて測定する。  2 厚さは延長40mごとに道路中心付近及び端部で不陸整正後に水糸又はレベルにより横断方向に3箇所測定する。	測定値は結果表にとりまとめる。	設計図(展開図見取図)に実測値を朱書するもの	管理図表によるもの	幅、厚さを実測し様式45号で管理する。  	
		厚さ(t1、t2、t3)	-10						
		※下層路盤は路盤工(敷砂利)を適用							

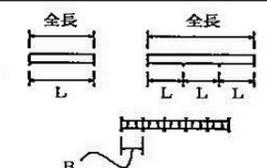
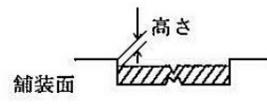
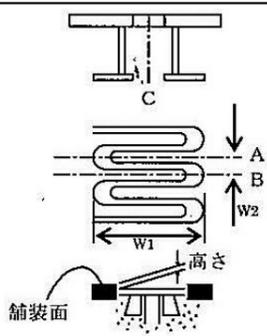
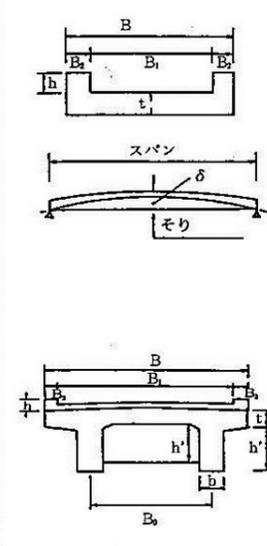
工種	項目	規格値(mm)	施工管理基準				概要	
			測定基準	結果表によるもの(設計値、実測値、差を記入する)	設計図(展開図見取図)に実測値を朱書するもの	管理図表によるもの		
護岸工	コンクリート張工 コンクリート枠張工 平張ブロック工 (海岸防潮堤、流路工を含む)	基準高	±50	施工延長20mにつき1箇所測定する。	基準高、法長、厚さの実値で図面表示できないものを結果表にまとめる。	1 基準高、法長の実測値を図面に記入する。		
		法長	ℓ < 3m					-50
			ℓ ≥ 3m					-100
		厚さ	t < 10cm					-20
			t ≥ 10cm					-30
		幅(W)	-50					
		厚さ(t2)	-20					
		延長(L) (各区分延長および総延長とも)	-100					
	法勾配	±0.3分						
	石張(石積)工	基準高	±50	施工延長20mにつき1箇所測定する。	基準高、法長、厚さの実測値で図面表示できないものを結果表にまとめる。	1 基準高、法長の実測値を図面に記入する。 2 厚さの測定箇所および実測値を記入する。		
法長		ℓ < 3m	-50					
		ℓ ≥ 3m	-100					
厚さ(t1)		-30						
幅(W)		-50						
厚さ(t2)		-20						
延長(L) (各区分延長および総延長とも)		-100						
法勾配	±0.3分							
連節ブロック張工	基準高	±100	施工延長20mにつき1箇所測定する。	基準高、法長、厚さの実測値で図面表示できないものを結果表にまとめる。	1 基準高、法長の実測値を図面に記入する。 2 測定箇所および実測値を記入する。			
	法長(ℓ)	-100						
	延長(L) (各区分延長および総延長とも)	-100						
巨石積(張)工	基準高	±300	施工延長20mにつき1箇所測定する。	基準高、法長、厚さの実測値で図面表示できないものを結果表にまとめる。	1 基準高、法長の実測値を図面に記入する。 2 測定箇所および実測値を記入する。			
	法長(ℓ)	-200						
	延長(L) (各区分延長および総延長とも)	-200						
基礎工	基礎工 (基礎砕石工 基礎栗石工 均しコンクリート工)	幅(a1, a2)	設計値以上	1 施工延長40mにつき1箇所測定する。 2 施工延長40m以下のものは1施工単位につき2箇所測定する。	幅、厚さ施工延長を結果表にまとめる。	展開図等の図面表示箇所に記入する。		
		厚さ(h1)	-30					
		〃(h2)	-10					
		延長(L)	※各構造物の規格値を適用					
	基礎杭打工 (鋼管杭 H鋼杭 場所打杭)	基準高	±50	全数基準高、偏心量を測定する。	基準高、偏心量を結果表にまとめる。			
偏心量(d)		D/4以内かつ100以内						
矢板工 (鋼矢板 鉄筋コンクリート矢板)	基準高	±50	施工延長20mにつき1箇所の割合で測定する。ただし、施工延長20m以下のものは1施工単位につき2箇所測定する。	基準高、変位の実測値で図面表示のできないものを結果表にまとめる。				
	変位(e)	100						

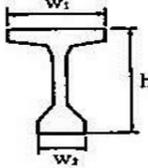
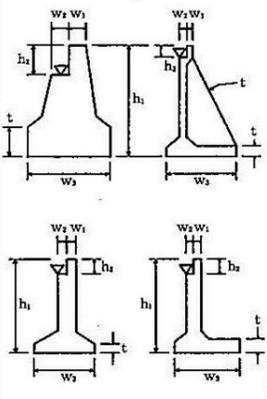
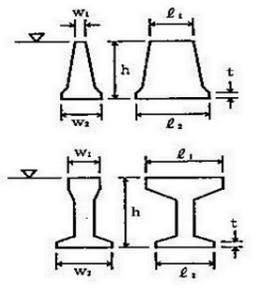
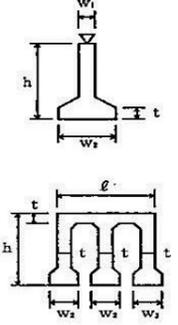
工種	項目	規格値(mm)	施工管理基準				概要	
			測定基準	結果表によるもの(設計値、実測値、差を記入する)	設計図(展開図見取図)に実測値を朱書するもの	管理図表によるもの		
治山ダム工	治山ダム工 (本堤、副堤) 〔床固工 谷止工〕	基準高	±30	1 基準高は放水路、袖、各3箇所ずつ測定する。 2 各部寸法は寸法の変化する箇所ごとに測定する。 3 天端巾はダム軸より上流、下流に分けて測定する。	基準高、幅等の実測値で図面表示のできないものを結果表にまとめる。	基準高、幅等の実測値を図面に記入する。	基準高、天端巾を実測し様式45号で管理する。	
		幅(W1, W2)	-20					
		放水路(φ1, φ2)	±50					
		延長(L)	-50					
		各部寸法(φ, h)	-50					
		法勾配	±0.3分					
	水叩工	基準高	±30	1 基準高は設計基準高の変化する箇所ごとに測定する。 2 厚さは図面表示箇所を測定する。 3 施工延長は各部変化する箇所ごとに測定する。	基準高、幅等の実測値で図面表示のできないものを結果表にまとめる。	基準高、幅等の実測値を図面に記入する。		
		幅(b)	-50					
		厚さ(t)	-20					
		延長(L)	-100					
	側壁工 袖かくし工	基準高	±50	1 基準高は設計基準高の変化する箇所ごとに測定する。 2 厚さは図面表示箇所を測定する。 3 施工延長は各部変化する箇所ごとに測定する。	基準高、幅等の実測値で図面表示のできないものを結果表にまとめる。	基準高、幅等の実測値を図面に記入する。		
		厚さ(b)	-20					
		延長(L)	-100					
		高さ(h)	-50					
		法勾配	±0.3分					
	鋼製ダム(バットレス)	基準高	±30	1 基準高、放水路幅、延長、法勾配は、治山ダム工に準ずる。 2 ボルト締付力は、全ボルト数の5%以上を確認する。	治山ダム工に準ずる。	治山ダム工に準ずる。	治山ダム工に準ずる。	
		放水路幅(b)	±50					
		延長(L)	-50					
		法勾配	±0.3分					
		ボルト締付力	設計値以上					
	鋼製自在枠ダム	基準高	+50 -80	1 基準高、放水路幅、延長、法勾配は、治山ダム工に準ずる。 2 ボルト締付力は、全ボルト数の5%以上を確認する。	治山ダム工に準ずる。	治山ダム工に準ずる。	治山ダム工に準ずる。	
放水路巾(b)		±50						
延長(L)		-50						
法勾配		±0.3分						
高さ(h)		-50						
幅(W)		-20						
ボルト締付力		設計値以上						
木製ダム	基準高	±80	治山ダム工に準ずる。	治山ダム工に準ずる。	治山ダム工に準ずる。	治山ダム工に準ずる。		
	放水路巾(b)	±50						
	延長(L)	-50						
	法勾配	±0.3分						
	高さ(h)	-50						
	巾(W)	-50						

工種	項目	規格値(mm)	施工管理基準				概要	
			測定基準	結果表によるもの(設計値、実測値、差を記入する)	設計図(展開図見取図)に実測値を朱書するもの	管理図表によるもの		
山腹土留工	山腹土留工 (鋼製自在枠格柵)	基準高	+50 -80	1 施工延長は、全長を鋼材中心間で測定する。 2 幅、高さ、法勾配については、施工延長20mにつき1箇所、延長20m以下のものは1施工単位につき2箇所測定する。 3 ボルト締付力は、全ボルト数の5%以上を確認する。	基準高、幅、高さ、延長等で図面表示できないものを結果表にまとめる。	基準高、幅、延長等で図面表示できるものの実測値を記入する。		
		延長	-0.2%					
		高さ	h < 2m					±30
			h ≥ 2m					±45
		法勾配	±0.3分					
		幅(B)	-20					
ボルト締付力	設計値以上							
山腹水路工	山腹水路工 (コンクリート、コルゲート等二次製品)	延長	-0.2%	施工箇所ごとに測定する。		工種配置図に実測値を記入する。		
	山腹水路工 (コンクリート、張石水路)	延長	-100	施工箇所ごとに測定する。		工種配置図に実測値を記入する。		
		幅(B)	-30					
		厚さ(t)	-20					
		深さ(h)	-30					
	山腹水路工 (張芝、土のう、木、編柵)	法長	1施工箇所	-500	施工箇所ごとに測定する。		工種配置図に実測値を記入する。	
			総延長	-2%				
		幅(B)	-50					
		深さ(h)	-50					
暗渠工	暗渠工 (礫、蛇籠等、暗渠)	延長	1施工箇所	-500	施工箇所ごとに測定する。		工種配置図に実測値を記入する。	
			総延長	-2%				
		幅(B)	-50					
		深さ(h)	-50					
筋工	筋工 (石、萱、植生袋、その他)	延長	-2%	施工延長は全量を測定する。		工種配置図に実測値を記入する。		
伏工	伏工 (葎、藁、その他)	法長	φ < 5m	-100	全箇所を測定する。	法長、延長を測定し出来形展開図を作成し、面積計算書を作成する。		
			延長	φ ≥ 5m				
法切工	法切工 (切取、盛土)	法長	φ ≥ 5m	-4%	主縦断ごとに測定する。	法長、勾配、高さを実測し縦断図を作成する。		
			φ < 5m	-200				
		法勾配	切土	-0.5分 +1.0分				
			盛土	±0.5分				
集水井工	集水井工 (ライナープレート)	基準高	±100	1 基準高は4点測定する。 2 偏心量は頭部と底面の差を測定する。		実測ヶ所および実測値を記入する。		
		偏心量	200					
		長さ(L)	-100					
		巻立幅(W)	-50					
		巻立厚(t)	-30					
	集水井工 (吊コン・静水槽)	幅(b)	-30	1箇所(個)毎	基準高、幅、高さ、延長を図面表示できないものを結果表にとりまとめる。	延長等図面表示の出来るものの実測値を記入する。		
		厚さ(t)	-20					

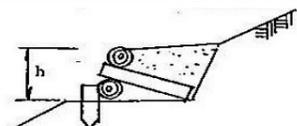
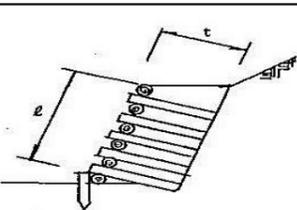
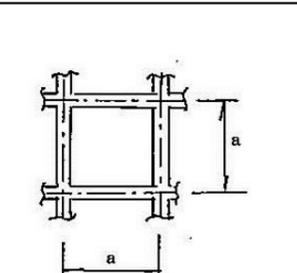
工種	項目	規格値(mm)	施工管理基準				概要	
			測定基準	結果表によるもの(設計値、実測値、差を記入する)	設計図(展開図見取図)に実測値を朱書するもの	管理図表によるもの		
ボーリング工	ボーリング (集排水、ボーリング)	基準高	±150	施工全数について測定する。		実測ヶ所および実測値を記入する。		
		延長	-150					
		平面角(指定角度)	±1度					
		傾斜角( )	±1度					
杭打工(地すべり防止)	杭打工 (鋼管杭)	基準高	±100	全数、基準高、偏心量を測定する。	測定結果を結果表にとりまとめる。			
		偏心量	D/4以内かつ100以内					
竈工	蛇竈 フトン竈 カゴ枠	延長 (1施工箇所)	-1.0%	1 施工箇所ごとに測定する。  2 延長40mにつき1箇所、40m以下のものは1施工箇所につき2箇所測定する。	測定値は結果表にとりまとめる。		延長、幅、高さ、法勾配を実測し様式45号で管理する。	
		幅(b)	-50					
		高さ(h)	-50n n:段数					
		法勾配	±0.3分 ※カゴ枠のみに適用					
橋梁工	鋼橋(部材精度)	部材高	$h \leq 5m$	±5	けた各部材ごとに2箇所測定する。	図面表示のないものについては結果表にとりまとめる。	図面表示箇所に実測値を記入する。	
			$h > 5m$	$\pm(2.5 + h/2)$				
		フランジ幅	$w \leq 0.5m$	±2	各けたの幅の変化点ごとに測定する。			
			$0.5 < w \leq 1m$	±3				
		部材長	$l \leq 10m$	±3	けた全数を測定する。			
			$l > 10m$	±4				
		板の平面度	けたの腹板	$h/250$ h:腹板高	変形で生じた位置で測定する。	図面表示のないものについては結果表にとりまとめる。	図面表示箇所に実測値を記入する。	
			箱げたフランジ及び鋼床版のデッキプレート	$b/150$ b:リブ間隔又は腹板間隔(mm)				
			フランジの直角度	$W/200$				
		鋼橋(部材精度)	トラス・アーチ等	部材高	$h \leq 5m$	±5	各スパン各部材の半数を1箇所測定する。	図面表示のないものについては結果表にとりまとめる。
$h > 5m$	$\pm(2.5 + h/2)$							
フランジ幅	$w \leq 0.5m$			±2	幅の変化点ごとに測定する。			
	$0.5 < w \leq 1m$			±3				
部材長	$l \leq 10m$			±2	主構けたを半数測定する。			
	$l > 10m$			±3				
圧縮部材の曲がり		$l/1,000$ l:部材長(mm)	主構全数測定する。					
板の平面度	フランジ及び腹板	$b/150$ b:溶接線間隔(mm)	変形で生じた位置で測定する。					



工種	項目	規格値(mm)	施工管理基準			概要							
			測定基準	結果表によるもの(設計値、実測値、差を記入する)	設計図(展開図見取図)に実測値を朱書するもの		管理図表によるもの						
橋梁工	鋼橋(仮組立時精度)	各橋種共通	全長支間長	$\pm(10+L/10)$ L:全長又は支間長(m)	各けたごと全数測定する。	図面表示のないものについては結果表にとりまとめる。	図面表示箇所を実測値を記入する。						
			主桁・主構の中心間距離	B ≤ 2m B > 2m	±4 ±(3+B/2) B:設計中心間距離(m)				1連ごとの両端及び支間中央について各上下巻を測定する。				
			そり	L ≤ 20m L:支間長(m)	±5				主げた、主構を全数測定する。				
				20 < L ≤ 40m	-5~+10								
				40 < L ≤ 80m	-5~+15								
				80 < L ≤ 200m	-5~+25								
			伸縮装置	ゴムジョイント	据付け高さ				舗装面に対し0~-2	両端及び中央部付近を測定する。	図面表示のないものについては結果表にとりまとめる。	図面表示箇所を実測値を記入する。	
					表面の凹凸				3				
					仕上げ高さ				舗装面に対し0~-2				
	伸縮装置	鋼製フィンガージョイント	据付け高さ	±3	1 高さは、車道端部、中央部各3点各9点測定する。 2 縦方向及び横方向間隔は、両端、中央部の計3点測定する。	図面表示のないものについては結果表にとりまとめる。	図面表示箇所を実測値を記入する。						
			車線方向各点の高さの誤差の相対差	3									
			表面の凹凸	3									
			歯型板面の歯噛み合い部の高低差	2									
			縦方向間隔 W1	±2									
			横方向間隔 W2	±5									
	仕上げ高さ	舗装面に対し0~-2											
	鉄筋及びプレテンション桁橋、床版橋、床版工	基準高	±20	1スパン当たり両支点付近の両端と中央部を測定する。	図面表示のないものについては結果表にとりまとめる。	図面表示箇所を実測値を記入する。							
床版長、支間長 (ℓ)		±30	1スパン当たり左右各1箇所測定する。										
有効巾員 (B1)		+30~0	1スパン当たり両端及び中央付近で測定する。										
地覆		幅 (B2)	+20~-10	1スパン当たり左右各1箇所測定する。									
		高さ (h)	+20~-10										
橋桁のそり (δ) (プレテンション桁)		±8	中心線上のスパン中央で測定する。										
床版の厚さ (t)		+20~0	1スパン当たり左右各1箇所測定する。										
T桁、スラブ桁		高さ (h)	±5	各けた両端及び中央付近で測定する。ただし、横げたはいずれか1箇所測定する。									
		幅 (b)	±5										
けた中心間距離 (B0)		±20	両端部付近で測定する。										
横方向の曲がり (δ2) (プレテンション桁)		±50											
橋面関連各点の位置		±30	図面寸法明示の各箇所										

工種	項目	規格値(mm)	施工管理基準			概要	
			測定基準	結果表によるもの(設計値、実測値、差を記入する)	設計図(展開図見取図)に実測値を朱書するもの		管理図表によるもの
ポストテンションT(I)桁	上幅(w1)	+10、-5	けた全数について測定する。けた断面寸法測定箇所は両端部、中央部の3箇所とする。	図面表示のないものについては結果表にとりまとめる。	図面表示箇所に実測値を記入する。		
	下幅(w2)	±5					
	高さ(h)	+10、-5					
	けた長及び支間長(ℓ)	ℓ < 15m... ±10 ℓ ≥ 15m... ±(ℓ-5) かつ-30以内	1スパン当たり左右各1箇所測定する。				
	横方向最大タワミ(δ)	0.8ℓ ℓ: 支間長(m)	プレストレッシング後に測定する。				
橋台工	基準高	±20	1 全箇所 2 橋軸方向の寸法は各項目毎に2箇所測定する。その他は寸法表示箇所を測定する。	図面表示のないものについては結果表にとりまとめる。	図面表示箇所に実測値を記入する。		
	橋台幅(ℓ) (橋軸方向)	-50					
	橋台幅 (橋軸方向)	(W1、W2)					-10
		(W3)					-50
	高さ	躯体(h1)					-50
		胸壁					-30
	胸壁前面間又は胸壁前面と橋脚中心間の距離(L)	±30					
	橋軸の偏心量(e)	±50					
	基礎控壁の厚さ(t)	-20					
	支間長及び中心線の変位	±50					
橋脚工 (張出式) (重力式) (半重力式)	基準高	±20	1 全箇所 2 橋軸方向の断面寸法は、中央及び両端部、その他は寸法表示箇所を測定する。	図面表示のないものについては結果表にとりまとめる。	図面表示箇所に実測値を記入する。		
	橋脚幅	(ℓ1)					-50
		(ℓ2)					-50
	天端幅	(w1)					-20
	敷幅	(w2)					-50
	高さ	(h)					-50
	厚さ	(t)					-20
	橋脚中心間距離(L)	±30					
支間長及び中心線の変位	±50						
橋脚工(ラーメン式)	基準高	±20	1 全箇所 2 橋軸方向の断面寸法は、中央及び両端部、その他は寸法表示箇所を測定する。	図面表示のないものについては結果表にとりまとめる。	図面表示箇所に実測値を記入する。		
	橋脚幅	(ℓ)					-20
	厚さ	(t)					-20
	天端幅	(w1)					-20
	敷幅	(w2)					-20
	高さ	(h)					-50
	橋脚中心間距離(L)	±30					
支間長及び中心線の変位	±50						

橋梁工

工種	項目		規格値(mm)	施工管理基準				概要	
				測定基準	結果表によるもの(設計値、実測値、差を記入する)	設計図(展開図見取図)に実測値を朱書するもの	管理図表によるもの		
木製 構造物 工	柵工 編柵工 木製防護柵	延長	1施工箇所	-500	1 延長の測定は杭の中心点間を測定する。 2 施工箇所毎に2箇所以上測定する。	測定結果を結果表に取りまとめる。			(加工材は丸棒加工、バタ角など丸太を加工したものとす る。また素材の径は樹皮を除 いた部分の短径とする。) 
		柵高 (h)		±100					
		杭径 (D)		素材 -20 加工材 ±10					
		杭間隔 (L1)		+200					
	筋工	延長	1施工箇所	-500	1 延長の測定は杭の中心点間を測定する。 2 施工箇所毎に2箇所以上測定する。	測定結果を結果表に取りまとめる。			
		高さ (h)		-50					
		杭径 (D)		柵工に同じ					
	丸太積工	延長	1施工箇所	-500	1 延長の測定は杭の中心点間を測定する。 2 施工箇所毎に2箇所以上測定する。	測定結果を結果表に取りまとめる。			
		法長 (l)		-100					
		控長 (t)		-50					
		法勾配		±1.0分					
		杭径 (D)		柵工に同じ					
	法枠工	法長	$l \leq 10m$ $l > 10m$	-200 -300	1 施工箇所毎に測定する。 2 200㎡につき1箇所とし、1施工箇所の最少測定数は2箇所とする。	法長を実測し、展開図及び面積計算書を作成する。 測定を行った箇所及び実測値を表示する。			
		枠中心間隔 (a)		+200					
		杭径 (D)		柵工に同じ					
その他の木製構造物 (防風工、丸太伏工等)	延長	1施工箇所	-500	1 延長の測定は杭の中心点間を測定する。 2 施工箇所毎に2箇所以上測定する。	測定結果を表にとりまとめる。			※基本項目は工種によって該当するもののみ対象とする。	
	高さ (h)		-100						
	杭径 (D)		柵工に同じ						
	法勾配		±1.0分						
生育 基盤 盛土	面積		-1%	1 基準高は、中心およびその端部で測定する。 2 施工箇所毎に3箇所以上測定する。	測定結果を結果表に取りまとめる。			基準高、幅を実測し様式45号で管理する。	
	基準高		±100						
	幅 (B)		-100						
	法長	$l \geq 5m$ $l < 5m$	-4% -200						
	法勾配		±0.5分						

別表-2 治山・林道工事品質管理基準及び規格値

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法等	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認	
鉄鋼スラグ路盤工 (下層路盤を除く)	材料	必須	粒度	JIS A 1102 JIS A 1103	通過質量百分率 (%)		施工前		○
					ふるい目の寸法 (mm)	規格			
					31.5	100			
					26.5	95~100			
					19.0	80~100			
					13.2	60~100			
					4.75	35~80			
					2.36	25~60			
					0.425	5~25			
		0.075	1~10						
		水浸膨張比 (%)	JIS A 5015 附属書B	1.5以下	施工前		○		
		単位容積質量 (kg/L)	JIS A 1104	1.50kg/L以上	施工前		○		
		最大乾燥密度 (Mg/m <sup>3</sup> )	JIS A 1210	—	施工前		○		
		最適含水比 (%)	JIS A 1210	—	施工前		○		
		修正CBR (%)	舗装調査・試験法便覧	80%以上 (材令4日)	施工前		○		
一軸圧縮強さ (MPa)	JIS A 5015 附属書C	1.2MPa以上 (材令14日)	施工前		○				
自然含水比	JIS A 1203	—	施工前		○				
その他	呈色判定	JIS A 5015 附属書A	呈色なし	施工前	原料として高炉徐冷スラグを混合する場合に適用する。	○			
施工	必須	散水量 (密度) の測定	実散水量による	5~8L/m <sup>2</sup> (目安)	2回/日 (午前・午後) 以上	含水比9~11%で通常のアスファルト舗装工と同様の締固め (初期転圧、二次転圧、仕上げ転圧) を行うことで締固め度93%以上になるように粒度調整された鉄鋼スラグを使用した路盤に適用する。			
		支持力の測定	山中式土壌硬度計による	土壌硬度指数30mm以上 (養生期間経過後)	40mに1回 (横断方向に3箇所)	